

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う女子大学生の居場所の 選択・住まい方の変化について

Changes in types of housing and choices of places for female university students due to the spread of COVID-19

栗尾 野々花* 近藤 ふみ** 定行 まり子***
Nonoka KURIO Fumi KONDOH Mariko SADAYUKI

要約 本稿では、世界中で多くの感染者を出している新型コロナウイルス感染症（COVID-19）によって人々の生活が大きく変化したことを受け、今後の新しい住まい方の模索の一助となることを目的として女子大学生を対象に継続的な意識調査を実施した。その結果、①住まいの外では行政等が講じた対策が、住まいの中では大学の講義がオンラインとなったことが居場所の選択に影響を与えている、②「生活必需品以外を購入できる店舗」のような外出を伴う利用が緊急事態宣言発令中に大きく減少、解除後に回復している場が認められ、それらは住まいの中に代替できるものはあるが住まいの外に求められる機能である、③住まいの外に比べて住まいの中での感染症予防への意識は低い、④働き方や大学での受講の仕方の変化により住まいの中での生活時間が増加し、オンライン環境の充実やより広い空間を求めるなど、予防よりも住まいの快適さを重視する学生が多くいることが明らかになった。

キーワード：新型コロナウイルス感染症，居場所，住生活，アンケート，新しい生活様式

Abstract COVID-19 has affected many people around the world. In the context of changes in people's lifestyles due to COVID-19, continuous attitudinal surveys of female university students were conducted. The purpose of this study was to help students seek new types of housing. Results revealed the following: ① Locations outside the home were affected by administrative measures and conditions indoors were affected by the start of classes online, ② During the declared state of emergency, students went outside far less frequently to "stores where one could buy items other than daily necessities" and students were able to find alternatives indoors, but locations outside the home are needed. ③ Students were less aware of the need to prevent infection prevention indoors than when outside the home. ④ Due to changes in work patterns and class delivery, many students spent more time at home; they need a rich online environment and more space because they value comfortable living more than prevention.

Key words : COVID-19, place, type of housing, questionnaire, A New Lifestyle

はじめに

2019年12月に初めて中華人民共和国湖北省武漢市において報告された新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、日本でも2020年1月16日に初めて確認されてから多くの感染者が出ており、今日までの様々な報道や政府・企業等の対応により人々

* 家政学研究科住居学専攻
Graduate School of Home Economics, Division of Housing and Architecture
** 住居学科学術研究員
Researcher, Department of Housing and Architecture
*** 住居学科
Department of Housing and Architecture

Table 1 Outline of the questionnaire

調査日	アンケート内容	回答数(%)	回答者について
① 5月20日	外出について① 新しい生活様式①	93(98.9%)	・回答者 94名
② 5月27日	住まいの中の居場所①	88(93.6%)	
③ 6月3日	住まいの外の居場所①	89(94.7%)	
④ 6月10日	外出について② 新しい生活様式② アルバイト①	89(94.7%)	
⑤ 6月17日	住まいの機能	88(93.6%)	
⑥ 6月24日	住まいの中の居場所②	87(92.6%)	
⑦ 7月1日	住まいの外の居場所② 食生活	82(87.2%)	
⑧ 7月8日	外出について③ 新しい生活様式③ アルバイト②	89(94.7%)	
⑨ 7月15日	住まいの工夫	91(96.8%)	
⑩ 7月22日	住まいの中の居場所③	93(98.9%)	
⑪ 7月29日	住まいの外の居場所③	86(91.5%)	
⑫ 8月5日	外出について④ 新しい生活様式④	89(94.7%)	
⑬ 10月21日	継続調査全項目	42(44.7%)	
コロナに関連した対応など			
1月9日	武漢の肺炎を新型コロナウイルスと認定	5月7日	調査対象学生 講義開始(オンライン)
1月16日	日本で感染を確認	5月14日	39県の緊急事態宣言解除
1月28日	日本で新型コロナ感染症が「指定感染症」に	5月21日	京都・大阪・兵庫で緊急事態宣言解除
2月5日	クルーズ船が14日間の隔離措置開始	5月25日	北海道・埼玉・千葉・東京・神奈川で緊急事態宣言解除
2月13日	日本で初の死亡者を確認	6月2日	東京アラート発令
2月28日	全国の小中高が臨時休校を開始	6月11日	東京アラート解除
3月5日	WHOがパンデミック認定	6月19日	東京・千葉、休業要請全面解除
3月12日	マスク転売禁止	7月10日	県境をまたぐ移動制限を全国で全面解除
3月24日	東京オリンピック延期決定	7月22日	観光支援事業GoToキャンペーン開始(東京以外)
3月25日	東京都 週末の外出自粛要請	8月13日	調査対象学生 夏季休暇(~9月20日)
4月7日	7都府県に緊急事態宣言発令	10月1日	GoToキャンペーン東京解禁
4月16日	緊急事態宣言を全国に拡大		
5月4日	緊急事態宣言を延長 新しい生活様式の実践例を提示		

の生活は大きく変化している。

本稿では、女子大学生を対象に大学の前期に行われた1講義で統計的な公表を求めてWebアンケート調査を実施し、今後の新しい住まい方の模索の一助となることを目的として、新型コロナウイルスによる生活の変化を感染者数や政府の対応等との関連性と共に明らかにする。

行ったアンケート調査の概要 (Table 1)、東京都1)と神奈川県2)における新型コロナ感染症の陽性患者発表数の推移 (Fig.1)は以下の通りである。また、本稿では全13回のアンケート調査について調査日の順にアンケート①~⑬と表記し、以下緊急事態宣言発令前、発令中、解除後の比較も行ったが、これについては回答者の過半数が東京都と神奈川県に居住していることから、アンケート①は緊急事態宣言発令中、②からを解除後としてまとめている。また、継続で行っていた調査についてアンケート⑬で補足調査を実施したが現時点で回答率が低い

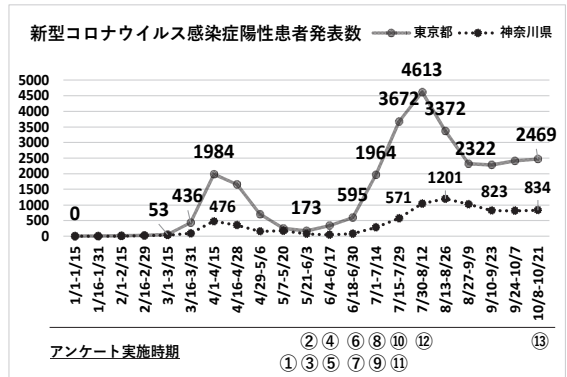


Fig.1 Number of COVID-19-positive patients

本稿では各アンケートの比較のグラフには加えていない。

1. 住まいの外の居場所について

アンケート①では外出自粛について9割が意識し

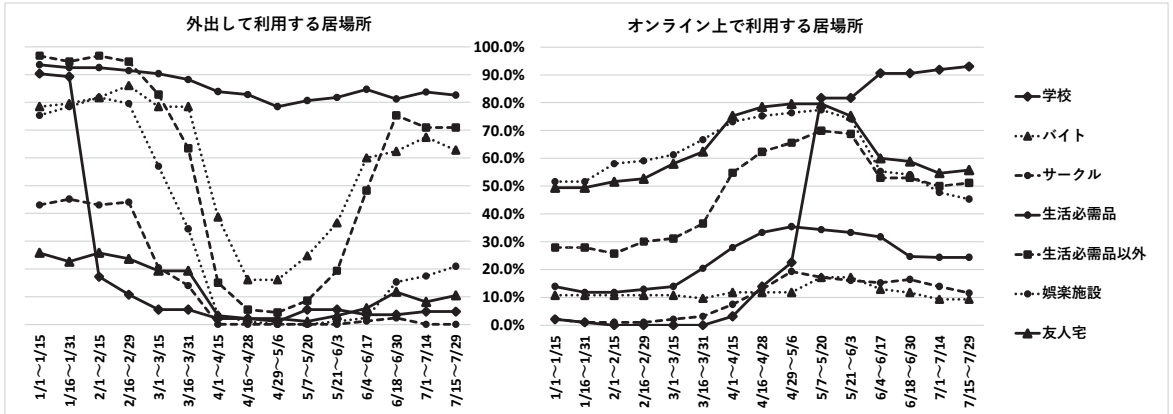


Fig.3 Use of places (outing/online)

ていると回答、残りの1割もどちらかと言えば意識していると回答した (Fig.2)。その1か月後に行ったアンケート⑧までにその数は徐々に減少したものの多かれ少なかれ意識している割合は約9割と高いままであった。アンケート⑫では意識している割合が増加しており、回答者の居住地として多い東京都と神奈川県において陽性患者発表数が急増していることが理由のひとつとして考えられる。その後陽性患者発表数は減少、緊急事態宣言解除から約5か月経過した時期に実施したアンケート⑬では意識している割合が約半数にまで減少している。

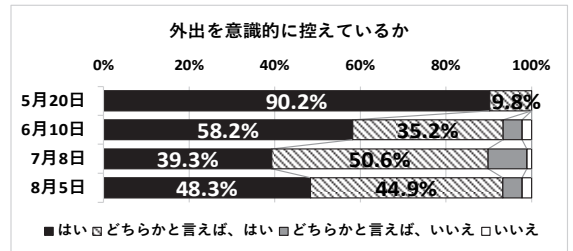


Fig.2 Attitudes towards leaving the house

アンケート①・④・⑧・⑫では調査日前の1週間の実際の外出日数について回答を得たが、その平均はいずれの調査日も平均3日で時期による変化はなかった。アンケート⑬では平均4日と徐々に増加していることが認められた。前述した外出日数と同じ期間についてその目的で最も多いものは、アンケート①・④が「生活必需品の買い物」、⑧からは「アルバイト」となっている。

利用した居場所について、外出して利用した居場所とオンライン上で利用した居場所に分けてアンケートを実施した (Fig.3)。それぞれの期間についての回答を得たアンケートは、1月から6月3日が③、6月4日から7月1日が⑦、7月2日から29日が⑩である。

大学が講じた入構制限等の新型コロナウイルス対策により、春期休暇後は外出して利用する居場所として「学校」の回答は回復していない。オンライン

講義のため Web 会議サービスの zoom や Microsoft Teams を導入したことで、大学のオンライン講義開始時期である「5/7~5/20」からオンライン上では「学校」を居場所としているとの回答が大きく増加している。「生活必需品を購入できる店舗」は新型コロナウイルスの影響が少なく、どの期間でも約8割以上が外出して利用している。通信販売サイトを利用しているという回答は「生活必需品以外を購入できる店舗」と比較すると少ないが、「3/1~3/15」からゴールデンウィークを含めた「4/29~5/6」の間に35.5%まで増加し、その後減少しているものの増加前よりも約10%高い割合が維持されている。外出して利用する「生活必需品以外を購入できる店舗」は「3/1~3/15」で減少し始め「4/1~4/15」でさらに大きく減少した。「4/29~5/6」で最低の約4%となり、その後増加しているもののその回答数は未だ減少前から回復していない。ただし、この結果と反比例してオンライン上で利用する「生活必需品以外を購入できる店舗」が増加・減少しており、通信販売サイト等に代えていることが認められ、現在は増加前よりも約20%高い割合が維持されている。住ま

いの外でする「アルバイト」は「4/1～4/15」で大きく減少しているが「5/7～5/20」からは増加している。アルバイトについてはその詳細を後述する。外出して利用する「娯楽施設」の回答割合も「4/1～4/15」で大きく減少し、「4/29～5/6」「5/7～5/20」では0%であった。一方オンライン上では多い時で約7割が利用しており、動画配信サービスやゲーム等の利用で代えていることが認められる。「6/18～6/30」で外出しての利用は増加しているものの7月29日の時点で利用するとの回答は約2割である。「サークル」は活動自体を再開していないところが多く、外出しての利用は4月1日から0%が続いている。また、友人とSNS等を利用して連絡を取る回数が増加しているという結果も得られた。

大きな変化が見られた「4/1～4/15」は7都府県（東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県・大阪府・兵庫県・福岡県）で緊急事態宣言が発令された時期であり、結果に影響を与えたもののひとつと考える。

外出目的の1位としてアンケート⑧から現在まで最も回答数の多いアルバイトの詳細について、緊急事態宣言発令前と発令中、解除後の3つの時期に分けてアンケートを行った（Fig.4）。緊急事態宣言発令前からアルバイトをしていないという回答が1割と僅かで、日頃から多くの学生がアルバイトをしている実態を確認した。発令中には7割以上の学生がアルバイトを行っていないものの、解除後は過半数がアルバイトを再開していることが認められた。また、アルバイトをしない理由としては「アルバイト先が休業している」という回答が最も多く、その他の詳細としては「休業はしていないが社員だけが働いている」「親に止められた」等があった。アルバイトしていると回答した中にも、緊急事態宣言発令中は発令前と比べて「アルバイト先の営業時間が短くなった」という回答が過半数を超え、塾講師のアルバイト等で「オンラインを利用するようになった」という回答が37.5%得られるなど、発令前と働き方は変わっていることが認められた。解除後は発令中と比べて「アルバイト先の営業時間が長くなった」という回答が約2割得られるなど新型コロナウイルスの影響を受ける前に働き方も戻ってきている。また、アンケート⑬の追加調査で新型コロナウイルスによる外出自粛前と現在で働き方が戻っていないという回答の詳細としては、「営業時間が短いま

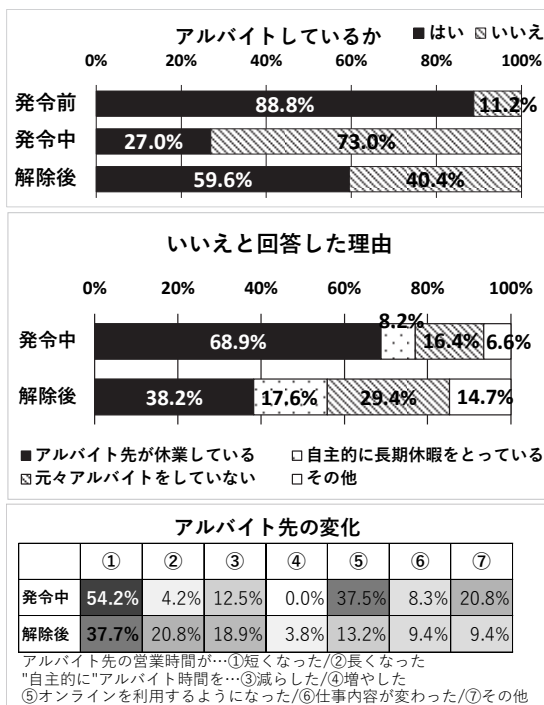


Fig.4 Changes in part-time jobs

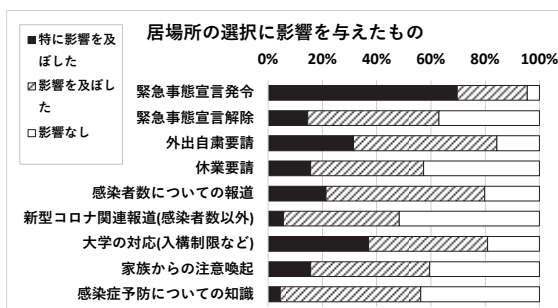


Fig.5 What influenced the choice of place

である」「新型コロナウイルス対策の細かな決まりを継続している」等がある。

これらの結果に影響を及ぼしていると考えられる9項目を挙げ、実際影響を及ぼしたかどうか3段階で回答する形式で再度アンケートを実施した（Fig.5）。多かれ少なかれ影響を及ぼしているとした回答は、「緊急事態宣言発令」「外出自粛要請」「大学の対応（入構制限など）」の順で多く、行政や大学の講じた対策は影響力があることが認められる。また、その中で「特に影響を及ぼした」と回答

した割合について「緊急事態宣言発令」が最も高い一方で「緊急事態宣言解除」は約15%と低く、解除後も緊急事態宣言発令からの新型コロナウイルスへの意識が残っていると考えられる。実際、前述した結果より解除後に発令前ほど外出状況が回復していないことが認められる。

2. 住まいの中の居場所について

以下住まいの中の変化について、アンケート②は新型コロナウイルスによる影響を受ける前として調査日の1年前を比較対象に回答を得ている。

住まいの居室等の利用時間の変化について、アンケート②で新型コロナウイルスの影響を受ける前との比較調査を実施した。「増えた」の割合が最も高かった項目は「自分の部屋」で約8割、リビング・ダイニング・キッチンも多かれ少なかれ増加しているとの回答が過半数得られた (Fig.6)。緊急事態宣言解除後もアンケート⑥・⑩で前回アンケートの時期と比較して同様の調査を行ったが、どの場においても回答者の過半数がアンケート②で回答した時から住まいの居室等の利用時間に変化はなかった。

住まいの中で最も利用する居室は「自分の部屋」が圧倒的多く、次にリビング・ダイニングと続く (Fig.7)。この時「自分の部屋」にきょうだい等と共有している場合も含んだ場合 81.6%、自分だけの部屋があると回答した場合で再度集計すると 87.7% が「自分の部屋」を最も利用していると回答した。Fig.7 はアンケート②の結果で、アンケート⑥・⑩で同様のアンケートを行ったが時期によって利用する居室に大きな変化はなかった。

Fig.7 から確認できた最も利用する居室上位3つの利用する理由 (Table 2) を、記述で得た詳細回答と合わせてまとめる。「自分の部屋」は寝室としての機能をもっていることが多いため「睡眠・仮眠をとる」との回答が 85.4%得られたが、それ以外にも「ひとりになることができる」「勉強・課題に取り組む」「静かな空間である」「自由に使うことができる」で8割以上の回答が得られ、オンライン講義や課題をする場として適した環境を求めていることが読み取れる。一方で「リビング」は「ひとりになることができる」「静かな空間である」が0%だったこ

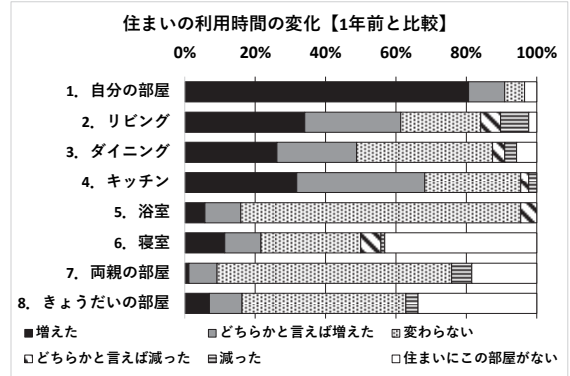


Fig.6 Changes in time spent at home

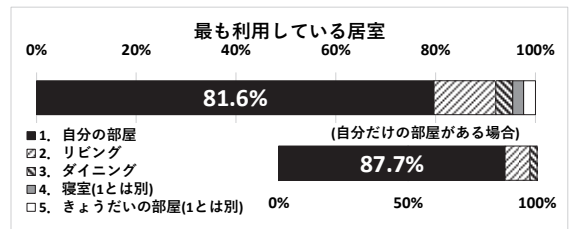


Fig.7 The most used room

Table 2 Reasons for using the room

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
自分の部屋	92.1%	2.2%	13.5%	82.0%	86.5%	29.2%	4.5%	85.4%	92.1%	55.1%
リビング	0.0%	77.5%	71.9%	24.7%	0.0%	46.1%	22.5%	14.6%	13.5%	40.4%
ダイニング	0.0%	42.7%	21.3%	9.0%	0.0%	32.6%	79.8%	1.1%	12.4%	16.9%

①ひとりになることができる/②同居人と会話できる/
③広い空間を使うことができる/④自由に使うことができる/
⑤静かな空間である/⑥使いたい家具・電化製品がある/⑦食事をする/
⑧睡眠・仮眠をとる/⑨勉強・課題に取り組む/⑩インターネット環境が良い

とや「同居人と会話できる」が 77.5%で最も多かったことから、にぎやかな空間や交流の場が求められている。また「広い空間を使うことができる」が次に高い割合を示しており、課題や運動のために広い空間を必要として利用するという回答が得られた。「ダイニング」は、全体の集計では食事の場・同居人との交流の場として多く利用されていることが確認できるが、ダイニングを最も多く利用する居室として選択した回答者はダイニングを「勉強・課題に取り組む」場としても利用している。

アンケート②で行った住まいの中の行為の変化について「勉強」「スマホやPC」の時間が増加してい

ると回答した割合が高いこと (Fig.8) や前述したアンケート結果から、住まいの中の居場所の選択にテレワークやオンライン講義が大きな影響を与えていることが認められる。アンケートの回答者の約9割が実家暮らしのため、同居人も含めたテレワーク・オンライン講義についての調査を実施した (Fig.9)。

住まいでテレワークやオンライン講義を行っている人数は時間の経過とともに減少しており、7月22日時点で57.4%が住まいでオンライン講義を行っているのは自分のみと回答している。講義や仕事で同時に利用している居室の数もそれに伴って減少しており、平均すると6月24日では約1.7部屋、7月22日では約1.5部屋となった。使用されている場所は自分の部屋が圧倒的に多く、次いでリビング、ダイニングが続く。少数意見では、廊下を利用しているという回答も得られた。

新型コロナウイルスによる働き方や受講の仕方の変化による影響を受け、以前は仕事や学習で使っていなかったリビング等をテレワークやオンライン講義のために利用しているという回答者は多かった。このような空間の用途変更等、住まいの使い方が変化したことを受けて回答者が行った住まいの改善や工夫について、8つの空間と改善・工夫内容10項目を挙げ実践したかどうかを選択 (Table 3)、記述でその詳細回答を得た。

「勉強・課題をする空間」の「オンライン設備の充実」が過半数の回答を得て、最も実践した割合が高いことが認められた。その詳細としては、「より良いオンライン設備に買い替えた」「Wi-Fiに近いところへ学習机を移動させた」「無線から有線に変更した」「新しくパソコンを購入した」などがあり、どの回答者も自身のオンライン講義や同居人のテレワークを理由としていた。「空間を広くする (片付け・断捨離など)」はどの空間においても1番目2番目に回答した割合が高い。前章のTable 2で示したように、勉強・課題をする場として使われることが多い「自分の部屋」を利用する理由として「広い空間を使うことができる」との回答が少なかったことから、勉強・課題空間は特に広さを求められていると考える。詳細回答では室内で運動するスペースの確保をしたとの回答が次に多く、特別な目的はないが在宅時間が増えたことにより住まいにあった物の整理をしたという回答もあった。全体的にオン

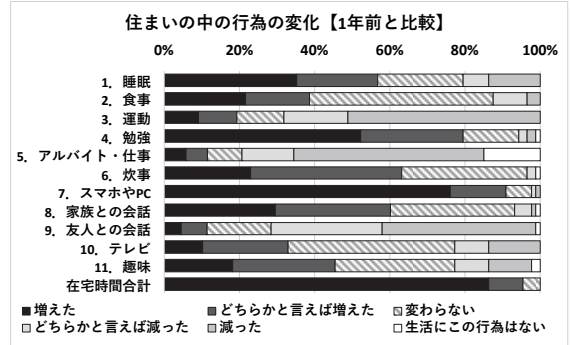


Fig.8 Changes in actions at home

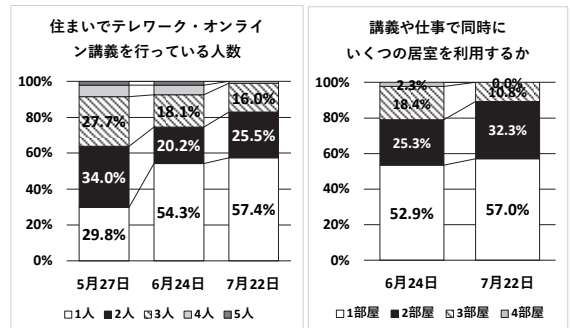


Fig.9 Changes in jobs and classes

Table 3 Approaches to and improvements in living situations

空間の利用され方	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	その他
1.睡眠・休息	26.4%	0.0%	7.7%	7.7%	19.8%	12.1%	5.5%	8.8%	0.0%	1.1%
2.食事をする	1.1%	1.1%	5.5%	2.2%	9.9%	3.3%	3.3%	7.7%	1.1%	4.4%
3.同居人が集う	1.1%	0.0%	1.1%	4.4%	16.5%	12.1%	3.3%	8.8%	1.1%	3.3%
4.同居人以外と交流	3.3%	2.2%	2.2%	1.1%	9.9%	11.0%	3.3%	4.4%	0.0%	3.3%
5.ひとりになれる	16.5%	3.3%	11.0%	6.6%	22.0%	27.5%	6.6%	2.2%	2.2%	4.4%
6.勉強・課題	18.7%	1.1%	13.2%	8.8%	30.8%	53.8%	9.9%	4.4%	2.2%	3.3%
7.趣味を楽しむ	11.0%	1.1%	6.6%	5.5%	17.6%	14.3%	6.6%	1.1%	2.2%	5.5%
8.運動する	1.1%	0.0%	3.3%	4.4%	17.6%	3.3%	3.3%	2.2%	1.1%	6.5%

①…同居人と同じ部屋を使わない/②…共有している部屋に仕切りを設ける/
 ③…家具配置の変更/④…新しい家具・機器の購入(広い机など)/
 ⑤…空間を広くする(片付け・断捨離など)/⑥…オンライン設備の充実/
 ⑦…収納スペースの確保/⑧…空気清浄関連設備の充実/⑨…防音対策

ライン講義を理由にしていることが多く、Table 2からも「勉強・課題」の場が特に改善・工夫されていることが確認できる。「ひとりになれる」空間がその次に割合が高いことから、自分の部屋をより過ごしやすく変更する回答者が多いことが考えられる。その他の詳細回答には、「パソコンの画面が見やすいように机の配置を変更した」「遮光カーテンを購入した」「同居人の生活音をマイクが拾ってしまう

Table 4 Extent to which students had adopted “A New Lifestyle”

① 基本的な生活様式		徹底して実践している	実践している	あまり実践していない	実践していない
1.遊びに行くなら屋内より屋外を選ぶ	5月20日	47.3%	28.0%	8.6%	14.0%
	6月10日	39.3%	39.3%	10.1%	9.0%
	7月8日	27.0%	39.3%	21.3%	11.2%
	8月4日	19.1%	53.9%	20.2%	4.5%
2.家に帰ったらまず手や顔を洗う	5月20日	90.3%	9.7%	0.0%	0.0%
	6月10日	78.7%	19.1%	1.1%	0.0%
	7月8日	78.7%	19.1%	1.1%	0.0%
	8月4日	76.4%	22.5%	0.0%	0.0%
3.手洗いは30秒程度かけて水とせっけんで丁寧に洗う	5月20日	52.7%	33.3%	10.8%	0.0%
	6月10日	52.8%	37.1%	10.1%	0.0%
	7月8日	43.8%	43.8%	10.1%	1.1%
	8月4日	48.3%	42.7%	7.9%	1.1%
4.発症したときのために誰とどこで会ったかメモする	5月20日	3.2%	8.6%	20.4%	63.4%
	6月10日	3.4%	6.7%	22.5%	65.2%
	7月8日	4.5%	5.6%	15.7%	71.9%
	8月4日	1.1%	10.1%	32.6%	55.1%
5.地域の感染状況に注意(情報収集)	5月20日	30.1%	54.8%	12.9%	2.2%
	6月10日	20.2%	48.3%	20.2%	4.5%
	7月8日	23.6%	55.1%	15.7%	4.5%
	8月4日	25.8%	56.2%	11.2%	3.4%

② 買い物		徹底して実践している	実践している	あまり実践していない	実践していない
1.通販を積極的に利用する	5月20日	36.6%	54.8%	5.4%	3.2%
	6月10日	27.0%	55.1%	13.5%	4.5%
	7月8日	18.0%	53.9%	19.1%	7.9%
	8月4日	21.3%	56.2%	11.2%	11.2%

④ 基本的感染対策		徹底して実践している	実践している	あまり実践していない	実践していない
1.外出してなくても、まめに手洗い・手指消毒	5月20日	29.0%	26.9%	34.4%	8.6%
	6月10日	23.6%	28.1%	38.2%	9.0%
	7月8日	33.7%	25.8%	27.0%	11.2%
	8月4日	21.3%	41.6%	25.8%	9.0%
2.3密(密集・密接・密閉)の回避	5月20日	58.1%	37.6%	3.2%	0.0%
	6月10日	51.7%	42.7%	3.4%	1.1%
	7月8日	46.1%	42.7%	7.9%	0.0%
	8月4日	41.6%	53.9%	2.2%	0.0%
3.毎朝体温測定、健康チェックする	5月20日	0.0%	8.6%	31.2%	57.0%
	6月10日	4.5%	5.6%	23.6%	60.7%
	7月8日	3.4%	7.9%	30.3%	56.2%
	8月4日	2.2%	7.9%	31.5%	51.7%

③ 食事		徹底して実践している	実践している	あまり実践していない	実践していない
1.外食ではなく持ち帰りや出前、デリバリーを利用	5月20日	46.2%	36.6%	3.2%	10.8%
	6月10日	32.6%	42.7%	10.1%	11.2%
	7月8日	16.9%	44.9%	27.0%	6.7%
	8月4日	14.6%	51.7%	15.7%	15.7%
2.屋外空間で気持ちよく食事する	5月20日	6.5%	12.9%	24.7%	51.6%
	6月10日	6.7%	13.5%	28.1%	46.1%
	7月8日	7.9%	19.1%	39.3%	31.5%
	8月4日	4.5%	25.8%	37.1%	31.5%
3.大皿は避けて、料理を個々にする	5月20日	16.1%	26.9%	26.9%	25.8%
	6月10日	14.6%	25.8%	38.2%	19.1%
	7月8日	11.2%	25.8%	44.9%	16.9%
	8月4日	10.1%	42.7%	33.7%	12.4%
4.対面ではなく横並びで座る	5月20日	7.5%	16.1%	30.1%	41.9%
	6月10日	2.2%	19.1%	40.4%	36.0%
	7月8日	5.6%	21.3%	46.1%	22.5%
	8月4日	3.4%	30.3%	44.9%	19.1%
5.料理に集中、おしゃべりは控えめに	5月20日	3.2%	19.4%	35.5%	36.6%
	6月10日	4.5%	25.8%	36.0%	30.3%
	7月8日	5.6%	24.7%	49.4%	18.0%
	8月4日	1.1%	34.8%	46.1%	16.9%
6.お酌、グラスやお猪口の回し飲みは避ける	5月20日	37.6%	25.8%	11.8%	16.1%
	6月10日	33.7%	30.3%	15.7%	10.1%
	7月8日	39.3%	28.1%	16.9%	11.2%
	8月4日	31.5%	41.6%	12.4%	7.9%

⑤ 運動		徹底して実践している	実践している	あまり実践していない	実践していない	利用しない
1.公園はすいた時間、場所を選ぶ	5月20日	16.1%	19.4%	5.4%	5.4%	53.8%
	6月10日	12.4%	25.8%	5.6%	9.0%	47.2%
	7月8日	10.1%	22.5%	13.5%	3.4%	50.6%
	8月4日	10.1%	25.8%	7.9%	1.1%	55.1%
2.筋トレやヨガは自宅で動画を活用	5月20日	33.3%	25.8%	6.5%	5.4%	29.0%
	6月10日	28.1%	32.6%	3.4%	6.7%	29.2%
	7月8日	14.6%	32.6%	11.2%	6.7%	34.8%
	8月4日	20.2%	24.7%	3.4%	6.7%	44.9%

ことが気になり職場や学習の場を分けた」等の回答がみられた。

3. 新しい生活様式について

新型コロナウイルスの対策について話し合う政府の専門家会議で2020年5月4日に「新しい生活様式」の実践例が提示された³⁾。その中から住まいに関連のあるものについてその実践状況を調査し、提示された実践例に倣って「基本的な生活様式」「買い物」「食事」「基本的な感染対策」「運動」に分け、それぞれの項目を①～⑤とし（Table 4）以下にまとめる。

①の1、②の1、③の1と2、⑤の1と2から新型コロナウイルスを意識した居場所の選択状況を読み取ることができる。緊急事態宣言発令中の5月20日時点で買い物は通販に、外食はデリバリーに替えているという回答が過半数得られ、運動に関しても公園を利用しないという回答が過半数ある一方で自宅での運動は約6割が行っている。いずれも「徹底して実践している」の回答数は減少傾向にあるため外に求める機能と言えるが、住まいの中に替えることができること分かる。屋外空間の使い方として、遊びは積極的に屋外を選択する回答が多かったが食事で屋外を選択する回答は少なかった。

①の2から5、③の3から6、④の1と3は住まいの中でする感染症対策を含んだ項目である。外出をした場合としなかった場合では手洗いへの意識に違いがあること、食事の項目において「徹底的に実践している」の回答者が少ないこと、④の2において実践している回答者が多いことから住まいの中での新型コロナウイルス対策への意識は住まいの外と比べると低いことが分かる。

①の4と5は新型コロナウイルスの情報に関する項目である。地域の感染状況についての情報収集はどの時期においても回答者の約8割が多かれ少なかれ実践しており、また、1章の「住まいの外の居場所について」で示したFig.5でも約8割が「感染者数についての報道」が居場所の選択に影響を及ぼしているとしたように、地域の感染者数への意識は高い。一方で、発症したときのために自身の行動をメモする回答者は少なく、Fig.5で「新型コロナ関連報道（感染者数以外）」の割合が他に比べて低いことから、新型コロナウイルスについては感染者数

の情報が最も重要視されていることが考えられる。

4. まとめ

新型コロナウイルスによって様々な機関から対策が講じられた。大学生は行政や大学、アルバイト先の対策が住まいの外の居場所の選択に影響しており、住まいの中では大学の講義の受講の仕方がオンラインに代わったことが居場所の選択に最も影響を与えていることが認められた。

外出を伴う居場所の選択について、緊急事態宣言発令等により一時的に利用者が減少した「生活必需品以外を購入できる店舗」「娯楽施設」のような場合は住まいの中で多少代えることはできるが外に求められる機能であると考えられる。

新型コロナウイルス感染症予防について、住まいの外の方が住まいの中よりも意識が高いことが確認できた。また、住まいの中においては感染症予防よりも、外出自粛により講義等の機能が住まいに移ったことを受けてより快適な空間にするための工夫や改善がみられ、その詳細としてオンライン環境の充実やより広い空間をつくるなどの回答が得られた。

本稿ではアンケート調査の全体集計から新型コロナウイルスの影響をまとめたが、今後は家族構成や住まいの間取り等より詳細な回答者個人の属性からの分析も必要である。

参考文献

- 1) 東京都オープンデータカタログサイト：東京都_新型コロナウイルス陽性患者発表詳細, <https://catalog.data.metro.tokyo.lg.jp/dataset/t000010d000000068/resource/c2d997db-1450-43fa-8037-ebb11ec28d4c>, (取得日：2020年10月23日)
- 2) 新型コロナウイルス感染症対策 陽性患者数及び陽性患者の属性データ, <http://www.pref.kanagawa.jp/docs/t3u/dst/s0060925.html>, (取得日：2020年10月25日)
- 3) 厚生労働省 HP：新型コロナウイルスを想定した「新しい生活様式」の実践例を公表しました, https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/000121431_newlifestyle.html, (取得日：2020年10月23日)

(指導教員：定行まり子)